

運動部活動指導の工夫・改善支援事業

施策目標	子供の体力の向上
達成目標	教員の指導力の向上やスポーツ指導者の活用等による体育・保健体育の授業の充実、運動部活動の活性化等により、学校の教育活動全体を通じて、児童生徒がスポーツの楽しさや喜びを味わえるようにする。

事業の目的

運動部活動の活性化により、子供たちがスポーツの楽しさや喜びを味わえるようになり、その結果、子供の体力向上につなげること。

目的を達成するための課題

担当する競技の経験がない教員が多い

顧問の教員の約半数が担当する運動部活動の経験がない。

資料1

教員が部活動に費やす時間が長い

諸外国に比べて、課外活動時間の指導時間が、非常に長い。

資料2

運動部活動に対する多様なニーズがある

部員の減少などの地域が抱える様々な問題に対応する必要がある。

資料3

体罰につながる行き過ぎた指導が行われている

体罰につながる行き過ぎた指導を防止するなど、教員の資質向上を図る必要がある。

資料4

外部指導者の専門的な指導による技術指導の充実

外部指導者の協力による教員へのサポート

個々の部活動の様々な問題に対応する取組への対応

体罰に頼らない指導力の向上
競技経験の浅い指導者等の資質向上

課題に対応するための事業

各学校で実施

外部指導者の協力による子供たちへの技術指導の充実

多様な運動部活動づくりに向けた運営の工夫・改善

※「女子生徒の参加しやすい運動部活動」や「複数校合同での運動部活動」など、多様なニーズに対する取組を実施

都道府県・指定都市関係団体で実施

運動部活動指導者への研修

事業の成果を運動部活動関係者を集めて共有

アウトカム

事業を実施した学校のデータ
○運動やスポーツをすることが好き
○自分の体力に自信がある
○体力合計点

Check

※「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」を活用し、全国の平均値と比較

前年度までのアウトカム

○中学校の運動部活動への参加率
○高校生の運動部活動への参加率

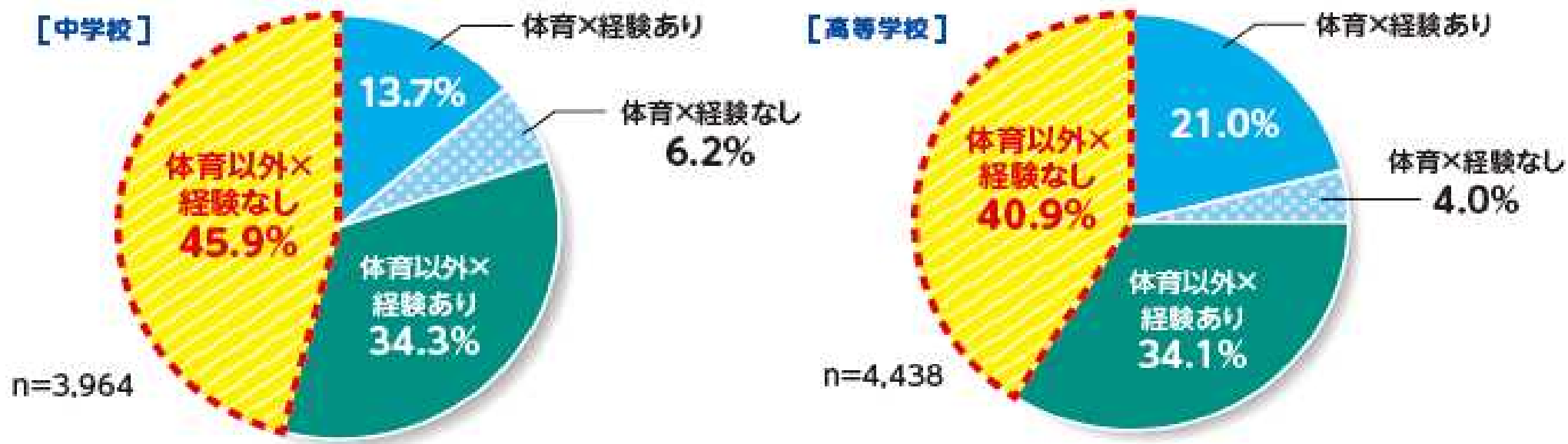
改善



Check

担当教科×現在担当している競技の過去経験の有無

- **体育×経験あり**:「担当教科が保健体育」かつ「現在担当している部活動の競技経験あり」
- **体育×経験なし**:「担当教科が保健体育」かつ「現在担当している部活動の競技経験なし」
- **体育以外×経験あり**:「担当教科が保健体育でない」かつ「現在担当している部活動の競技経験あり」
- **体育以外×経験なし**:「担当教科が保健体育でない」かつ「現在担当している部活動の競技経験なし」



(公財)日本体育協会調べ
学校運動部活動指導者の実態に関する調査(平成26年7月)

運動部活動を指導する顧問の教員の約半数が、担当する運動部活動の経験がない。

国際教員指導環境調査（TALIS）2013結果概要

資料2

○34か国・地域が参加するOECD調査

○日本は中学校約200校の校長、教員（非正規含む）を対象にアンケート調査（国公立90%、私立10%）

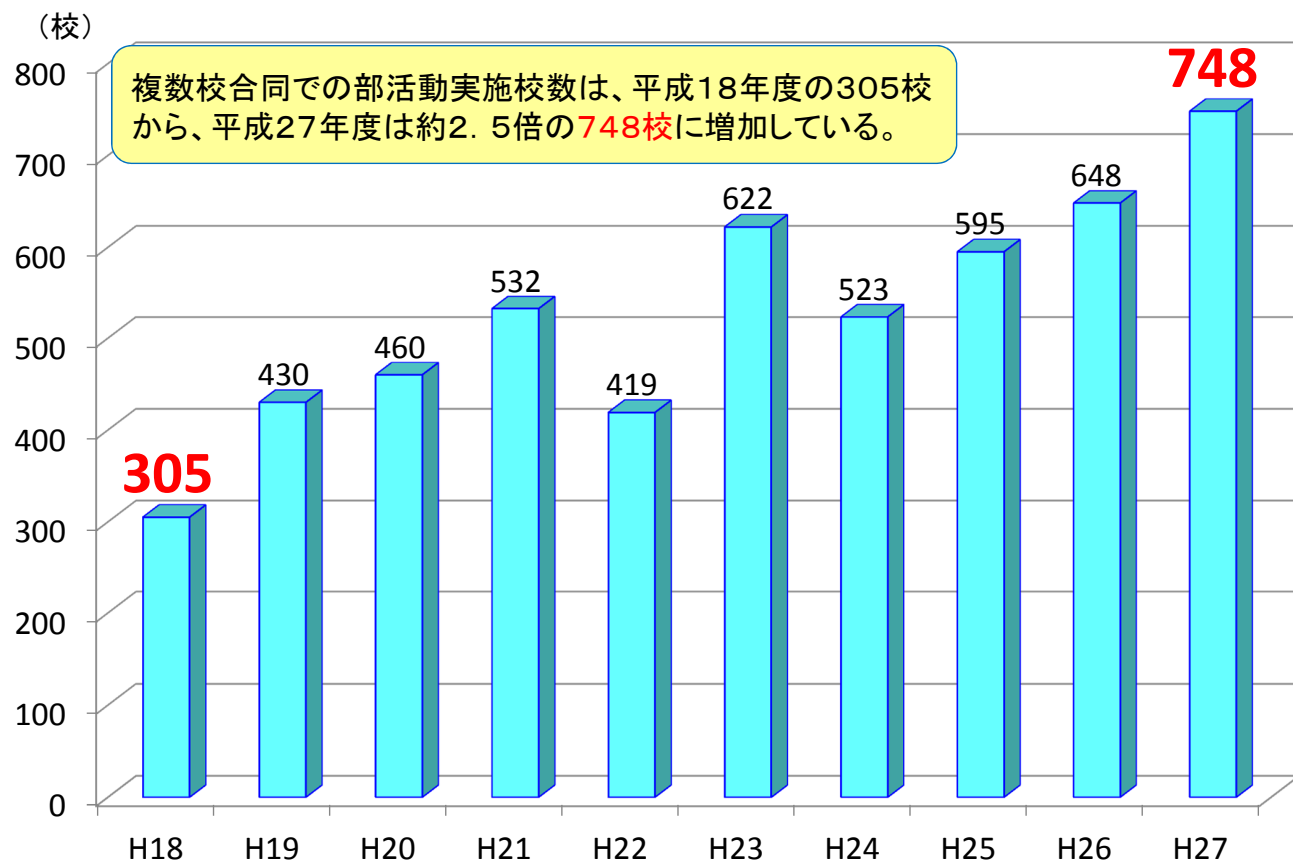
➤ 日本の教員の1週間当たりの勤務時間は最長。

➤ 授業時間は参加国平均と同程度であるが、課外活動（スポーツ・文化活動）の指導時間が特に長く、事務業務、授業の計画・準備時間も長い。

➤ 教員や支援職員等の不足を指摘する校長も多い。

＜1週間あたりの勤務時間＞





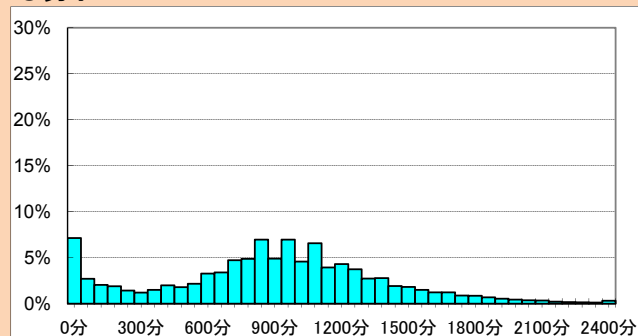
〈出典〉(公財)日本中学校体育連盟「加盟校調査集計」に基づき作成

1週間の総運動時間の分布・推移（中学校生徒）

全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、一週間の運動時間の分布は**二極化**しており、**中学校女子のおよそ7分の1が全く運動していない。**

《1週間の総運動時間の分布》

○男子

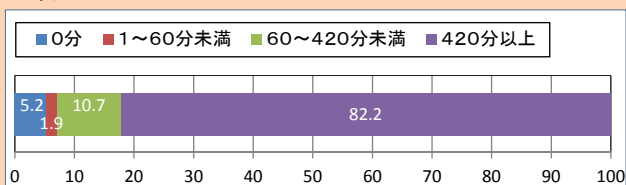


○女子

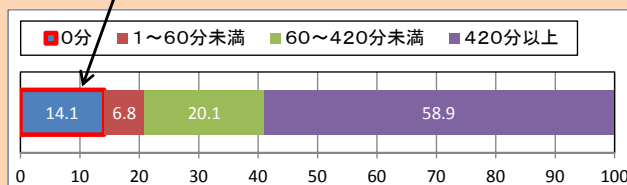


《1週間の総運動時間の分布》

○男子



○女子



〈出典〉スポーツ庁「平成27年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

文部科学大臣メッセージ ～スポーツ指導における暴力根絶へ向けて～ (平成25年5月)

- スポーツ指導者に対し暴力根絶の指導を徹底するとともに、スポーツ指導者が暴力によるのではなく、コーチング技術やスポーツ医・科学に立脚して後進をしっかり指導できる能力を体得していくために、スポーツ指導者の養成・研修の在り方を改善することが大切

体罰禁止の徹底にかかる通知の発出

- 体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について(通知)
(平成25年3月13日 初等中等教育局長及びスポーツ・青少年局長の連名で発出)
- 体罰根絶に向けた取組の徹底について(通知)
(平成25年8月9日 初等中等教育局長及びスポーツ・青少年局長の連名で発出)

「運動部活動での指導のガイドライン」の策定 (平成25年5月)

- 体罰の禁止など運動部活動での指導において必要である又は考慮が望まれる基本的な事項、留意点を整理

スポーツ団体による体罰根絶に向けた宣言の発表

- 運動部活動における体罰根絶宣言の発表
(平成25年3月13日 高体連及び中体連)
- スポーツ界における暴力行為根絶宣言の発表
(平成25年4月25日 日体協、JOC、日本障害者スポーツ協会、中体連、高体連)

<参考> 体罰の発生状況

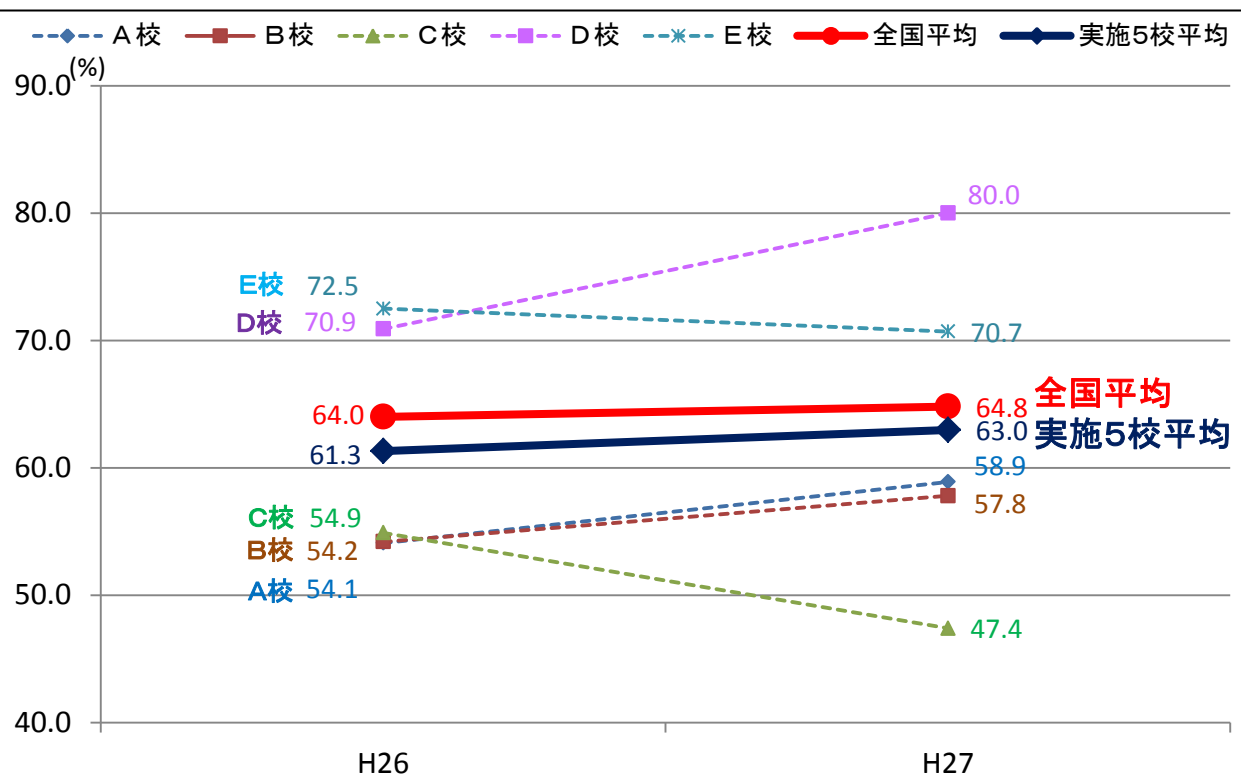
	発生件数	うち部活動
平成25年度	4, 175 件	1, 241件(29. 7%)
平成26年度	1, 126 件	246 件(21. 8%)

「運動部活動指導の工夫・改善支援事業」 実施校における『運動が好きと答えた生徒』の比較

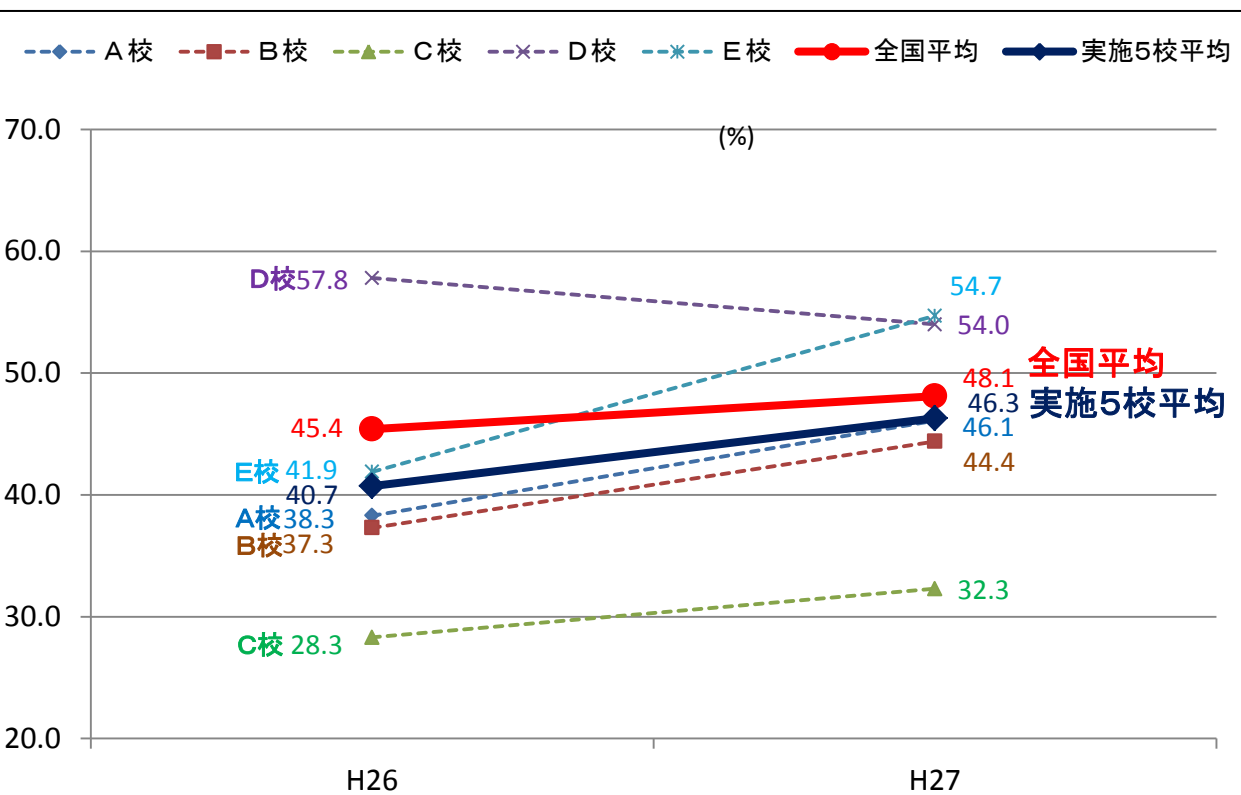
参考1

「運動部活動の工夫・改善支援事業」実施校のうち5校を抽出し、全国平均と比較した結果は以下のとおり。

○運動が好きと答えた生徒(男子)



○運動が好きと答えた生徒(女子)

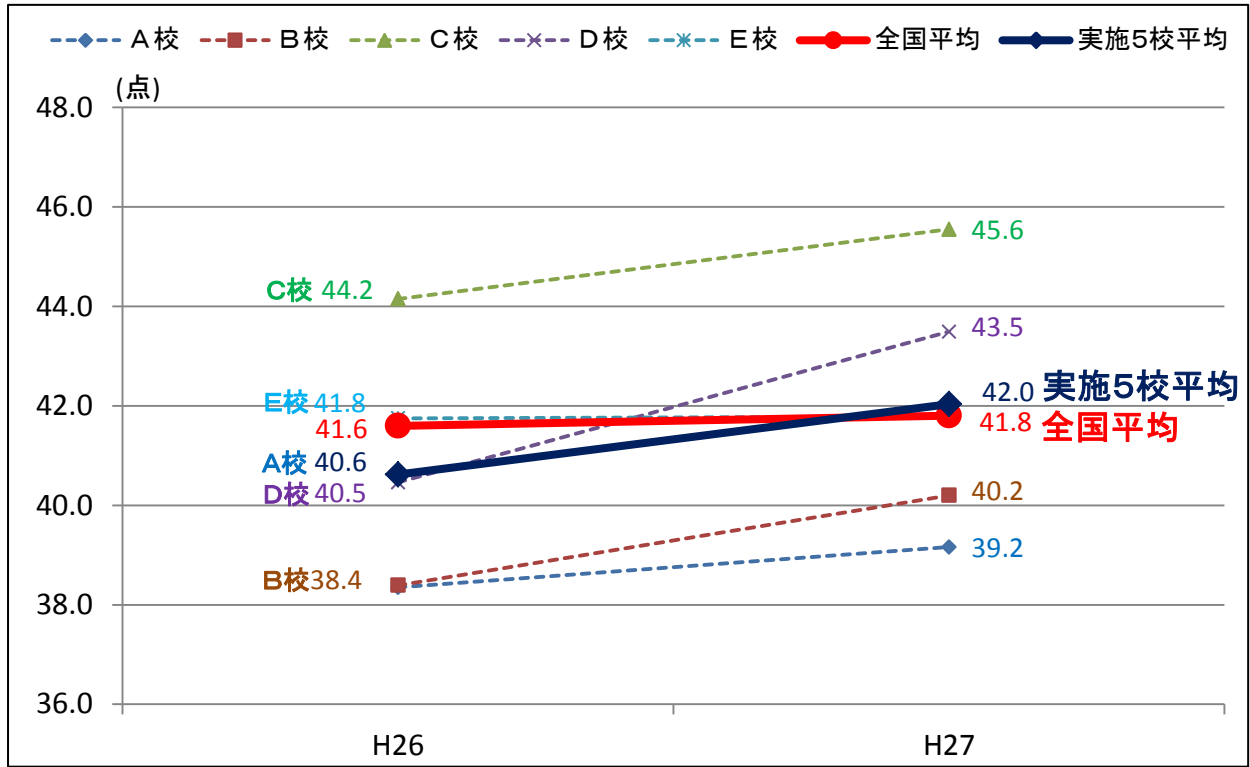


「運動部活動指導の工夫・改善支援事業」 実施校における『体力合計点』の比較

参考2

「運動部活動の工夫・改善支援事業」実施校のうち5校を抽出し、全国平均と比較した結果は以下のとおり。

○体力合計点(男子)



○体力合計点(女子)

